

1.はじめに

音楽好きです。ジャンル、好みは色々あるが、みんな音楽が大好きです。音楽を聞く環境も時代と共に変遷しました。今はAppleのiTunesなどのデジタル、ダウンロードが主流となっています。かつて1980年代、私が学生の頃ミニコンポ、ステレオセットが大ブームとなり、FM放送をエアチェックしてテープに録音していた。沢山のアーティストとメガヒットが目白押しであった。インターネット、ゲーム以前の懐かしい風景です。メンターもそんな青春時代を過ごしたと思います。今日はその頃の懐メロを語ってみます。共感してくれるでしょうか？

2.青春の音楽環境(1973-1978)

丁度私が高専時代にステレオコンポが流行った。寮の学生もこぞってアンプ、チューナー、スピーカー、レコードデッキと4つのコンポーネントを、ある濃いマニアはうんちくタレながら別々のメーカーで、ある人はお手軽に同メーカーのコンポセットで購入した。当時、FM雑誌やオーディオ系雑誌が沢山あり、学生達はあれこれ議論した。有名なメーカーは、私が知っている範囲でKENWOOD、オンキヨー、サンスイ、ソニー、デノン、パイオニア、ヤマハ、アイワでした。そして、コンポデッキの高品質な外観意匠が素晴らしい。重厚な質感、ヘアラインのクラフト感、ランプの色もブルーやオレンジが怪しく光る。まだLEDが出る前の電球の暖かい光の色である。室内アンテナを張り巡らせ、一番良い音の方向を探るが、時間帯によって、電波環境によって方向が安定しない。ちょっと薄暗い部屋で、コーヒーでも飲みながら好きな音楽に浸る(高専の寮は20歳以下なので禁酒)。好きな音楽を聞きながらヘッドホンをつけて、専門書の勉強をする。それが高専時代の寮のトレンドだった。そのために、バイトに汗したようなもんだ。

当時はカセットテープ全盛時代。TDK、SONY、MAXLLEあたりが御三家で、レコードやFMチェックで曲の時間を積算して、最適な時間の磁気テープ(両面で30分、45分、60分、90分、120分)を買っていた。ピッタリと時間を合わせて曲を選曲するのが妙技でした。60分なら59分で終わる。

本当かどうか？当時、120分はテープのフィルムの厚みが薄いので切れやすい、耐久性に問題があるとか？また、高音がよくでるテープとか、クラシック用とか煩いことを言ったらキリがない。語学用は安い5本セットを買って、趣味の音楽はメーカーとブランドと凝る。



ミニコンポ



カセット特売セット品と音楽用高いテープ



FM雑誌

一番特徴が出るのがラベルの書き方だった。几帳面な輩は、本当にワープロで打ったような文字で書き（まだワープロが無い時代）、それが20巻も揃うと美的に映る。そして尊敬してしまう。友達からテープを借りたら、テープを先頭に巻き戻して返却するのが礼儀でした。

流行ったのがエアチェック。レコードを買えない貧乏学生は今晚のFM音楽放送の雑誌の番組表をみて、録音チェックをメモする。夜、時刻通りに番組が始まる。学生オペレーターはここから勝負だ。ラジオのナレーション、進行もこちらがダビングすること知っている、録音スタート終了のタイミングは絶対に外さない。行き詰まる攻防であった。私はギターは弾くがコンポやレコードが無いので、もっぱらテープを購入して先輩の部屋で録音させてもらうが常だった。

当時、学生寮では共用のTVが1台あるだけ、10時には全館一斉消灯時間（コンセントも使えない）なのでアーティストの動いている風景など見たことがない。雑誌で写真を見るだけ、後にYOUTUBEで当時のライブ風景を見て目頭が熱くなる。今から30年、40年前のコンサートの様子が画質は悪いが見れる。嬉しい。一時期、沢山YOUTUBEからダウンロードして青春の穴を埋めた。私がおもっていたのはラジカセだった。語学練習も兼ねていたので音質以外にダブルデッキでテープダビングができ、早送り、巻き戻しのボタン操作がスムーズにできる機種を選んだ。歴代、何台買ったかな？。FMや短波が入るもの、スピーカーも低音と高音用のダブルのもの。本当に沢山の種類があった。夏に帰省する時はこれをもって帰省し、自宅で聞いていた。ラジカセ無い生活なんて考えられない。図体が大きくても、それを持って帰省する風景がありました。そんな時代だった。でも、関東のラジオ番組も静岡では無い寂しさを感じ東京圏の凄さを身にしました。

それでは、16-24歳の学生時代に良く聞いていた好きなアーティストを紹介したいと思います。写真は、2018年にネットから引用します。ネットはすごいですね、何でも探せばあります。最初は海外を、次にギターで練習した日本のフォークです。

3.1 QUEEN

初めて自腹で買ったLPがQUEENの”オペラ座の夜”のアルバム。この中の”ボヘミアンラブソディ”(1975年リリース)が素晴らしい。FMの人気トップ1位であった。しかし曲が長いので途中で切られるので、全部を聞くために初LPレコードを厚木の店で購入して、すぐに先輩の部屋でLPからテープにダビングした。QUEENの曲は好きな曲が多い。ハードロック系は少なく、どちらかと言うとバラード系



が多く、詩も良い。ボーカルのフレディ・マーキュリーの声良かった。メンバー全員大学院生の秀才でした。ギターの名手のブライアン・メイは天体物理学博士でもあります。右写真は奥にブライアン、手前のピアノがフレディ。

3.2 PPM

私の時代よりちょっと前に有名であった米国のピータ、ポール&マリーの3人グ



ループ。この中の”PUFF”が好き。ドラゴンと私の友情の物語、コミカルで、確か「百万人の英会話(★)」」の中にあつた曲だった。歌詞の英語を勉強した後、どうしてもPUFFのLPが欲しくて思い切って2枚目として買った。

★「百万人の英語」は、1958年4月1日～1992年10月4日に、文化放送やラジオたんぱ、日本全国のAM、FM、短波ラジオ放送局で放送された英会話番組。旺文社系列の財団法人日本英語教育協会(英教)が制作し、同時に番組テキストを兼ねた月刊雑誌も発行していた。

3.3 サイモンとガーファンクル

サイモンの高音のキレイな声と、ガーファンクルの曲がヒットしました。最初はラジオだけなので、どちらがボーカルなのか？サイモンはドッチ？楽譜本を買って、”スカボロー・フェア”、”コンドル”は飛んでいくをコピーして弾けるようになった。但し、歌は駄目、音程が高すぎる。今、動画で1980年代のコンサートの様子を見れる。ありがたい。



3.4 オリビア・ニュートン・ジョン

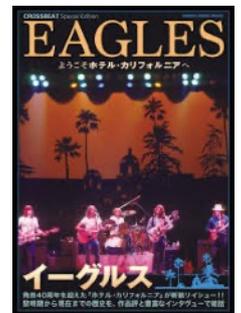
厚木の高専に来て初めて知ったFEN(★)ラジオから流れるきれいな声、大ヒットの”そよ風の誘惑”。実にいい。キレイな人だ、典型的な金髪美人。歌唱力もある。

★FEN:Far East Network、極東放送網

米軍が駐留する地に設けられた基地関係者とその家族向けのラジオ放送。日本でのサービスは、1997年までFENと呼ばれていた。今はAFN(American Forces Network、米軍放送網)。

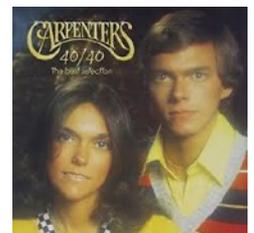
3.5 イーグルス

グローバルミリオンセラーが”ホテル・カルフォルニア(1976年)”、このドン・ヘンリーのハスキーな声と美しいメロディとギターテクニック。ギタリストの憧れの曲である。歌詞がまた、いい!、怪しげな恐ろしいホテル、二度と出てこれない。数年前にやっと1980年代のコンサートの様子をYOUTUBEでみて、またまた間奏のギター演奏に感涙する。美しいギターメロディのトップ5に入る。



3.6 カーペンターズ

あの美しい声のカレンは若くして摂食障害から病死してしまった。まったりとした発音で何曲もヒットした。みんな好きです。”トップ・オブ・ザ・ワールド”、”イエスタデイ・ワンス・モア”、”プリーズ・ミスター・ポストマン”いいね。今でもiPodに入れて聞いている。20世紀のベストボーカル100人に選出された。



3.7 ジョン・デンバー

カントリー・ミュージックはこの人から始まった？少なくとも私にとって、”故郷へ帰りたい”、”ロッキー・マウンテン・ハイ”は初めてのカントリーでした。自然が大好きなので、この歌

詞を聞くと昔、アメリカのTVドラマにあった”ワイオミングの兄弟”の雄大なロッキー山脈の映像が出て来る。ギターでコピーした。彼は飛行機事故で亡くなった。

3.8 ABBA

このスウェーデンのおかしなグループ。名前のABBAの1番目のBが鏡像になっている。色っぽい、大人の女性の2人は揃っているようで揃っていないところも魅力。”ダンシング・クイーン”。これに尽きる。来日しました。最近(2010年)でもちょっと太ったおばさん、おじさんで出演していた。

3.9 ヘレン・レディ

ラジオ番組「百万人の英会話」で勉強したのが”アンジーベイビー”。この歌詞を覚えた。私が18歳頃、ニキビに悩んでいた小僧がアメリカの情景を浮かべながら歌う。彼女は声量あるオーストラリア出身のプロの歌手です。その後、彼女の曲を集めた。また、ショートカットの髪型が好きです。私はショートカット派です。



3.10 吉田拓郎

あまりにも偉大です。ほぼ全曲、ギターで弾けるように日夜練習しました。作詞家の岡本おさみさんとの名コンビです。特に好きなのが、”旅の宿”、”ある雨の日の情景”、”今日までそして明日”から、”どうしてこんなに悲しいのか”、多数。歌詞がいいから、大人になってもシミジミ感じ入ります。広島市出身。これ以前はフォークは反戦、社会の闇を照らす音楽であった。この世代から日常の情景、学生のメランコリーな気持ちの楽曲になり、広まった。

3.11 井上陽水

ちょっとした皮肉と現実の間に流れる本音の歌詞が良い。”夢の中へ”、”帰れない二人”、”傘がない”、”心もよう”、”東へ西”へ、”少年時代”、多数。福岡市出身、今年70歳。

3.12 かぐや姫

これこそ、ギターのアルペジオ演奏をかなりコピーして覚えた。曲や歌詞が美しい。”妹”、”22歳の別れ”、”神田川”、”赤ちょうちん”、多数。学生の四畳半下宿音楽。こんなに好きなのに、コンサートには行ったことがない。理工系の実験が忙しく、金と時間をそこまでかける余裕はありませんでした。

3.13 中島みゆき

人柄も好き。頑張っている人の味方。”時代”の歌詞は本当に人生を物語っている。あと深夜ラジオ(★)のパーソナリティーでハチャメチャな番組を楽しんだ。あと、水森亜土の日曜深夜、TBSラジオで「深夜版ラジオマンガ」があった。深夜ラジオは過激な発言も下品な言い回しもありの秘密の世界でした。世間から隔離された高専の寮生活と世間の雑多な悩み事を結ぶ大事なチャンネルでした。中島先生も水森先生も挑発的な個性で楽しい。

★深夜ラジオ:中島みゆきのオールナイトニッポンは、ニッポン放送の深夜番組「オールナイトニッポン」の月曜1部で1979年4月2日～1987年3月30日まで放送されていたラジオ番組。

3.14 小椋佳

最初は誰?、銀行員?とよくわからなかったが、実にいい歌を作る。”さらば青春”がたしかNHKのみんなの歌で流れたのが知るキッカケとなった。”シクラメンのかほり”、”白い一日”、この3曲は完璧に弾けます。これが東大卒の銀行員の趣味?天分豊かです。

3.15 谷村新司

グループとしてはアリスです。中国人が大好きな”昴”が有名ですが、谷村新司は百恵ちゃんの”いい日旅立ち”がいいね。あと、深夜ラジオ(★)の毒がきいた番組を、消灯後の真っ暗の部屋で息を潜めてみんなと聞いていた。その時間になるとお腹が空いて眠れないのでみんなとポットの残り湯でインスタントラーメンをふやかして懐中電灯の光の下でモグモグ食べる。ぬるい!、3日も続けると、必ず胃をやられる。男子寮らしい風景だ。深夜コックリさんもやって憑かれた。

★深夜ラジオ:文化放送、谷村新司・ばんばひろふみのセイ!ヤングのコーナーの”天才、秀才、バカ”の視聴者葉書がバカバカしくて笑った。

3.16 荒井由実

初めて、コンサートというものに行ったのが、荒井由実の静岡駿府公演(★)。私が19歳の時。当時、荒井由実は知らなかったが男友達がチケットをくれたので行った。その後、好きになったシンガーです。特に”中央フリーウェイ”、”ひこうき雲”が好きです。

★”荒井由実さよならコンサート”1976年4月6日静岡駿府会館。ガールフレンドから誘われたらもっと思い出に残るイベントであっただろう。



3.17 JET STREEM

今月号は青春音楽特集なので、音楽に関しては私の100倍も時間と金を注ぎ込んだK子にも意見を聞いた。深夜ラジオに関しては、K子の方が上手。勿論、趣味は一致していないが、「JET STREEM(★)」は入れておいてとリクエストされた。城卓矢のJET STREEM、深夜便、大人の音楽。あの頃はまだ海外旅行が一般的でなかったもので、外国と、飛行機の旅に憧れた。私の最初の海外旅行は1985年、28歳の時、中国語教室の人と北京、西安と上海の旅行であった。ここで後に身元保証人になった中国の青年に出会った。今は、もう、仕事で海外へ行くこともなく、お気楽です。

★JET STREEM : TOKYO FMをキー局にJFN38局で放送されているイージーリスニングの音楽番組である。JAL協賛?、初代:城達也の渋い声がよかった。

深夜ラジオを聞いていたら、有線放送の歌謡曲になってしまった。3時過ぎ?もう寝なければ。おやすみなさい。こんな生活が週に2~3回ぐらいあった。

1972-1982年の10年間は、私の中学～大学院の黄金時代。親元を離れて寄宿寮、下宿と、やりたい放題だった。すごかった。勉強もしたし、文学もした、分析センターでアルバイト、家庭教師、部活、中国語、山、ロッククライミング、彼女とデートもどき、大学の研究室に宿泊、猛烈であった。この猛烈がその後の人生の糧となっている。今年61歳だが、3日以上寝込んだことが無い。入院、手術もなく医療保険はまったく無駄金である。何時か、掛け金を挽回できるぐらいの重病になって元本を償還したい。

5. 増田家の音楽趣味(1968-1973)

姉は少しの時間クラシックギターを習っていたが、音楽に凝る家庭ではなかった。ゆえに、両親も特になし。強いて言えば、母方の祖母が大の美空ひばりのファンで、母もそれに付き合っていた程度でした。洋裁、手芸、絵や書道の趣味はあったが音楽はなかった。故に子供の頃はラジオとTVだけ。ある日、私が中学2年の時、父が小さなプレーヤーを買ってきて、これでソノシート（赤や青色のプラチック盤）、漫画の付録のテーマソングを聞いていた。このプレーヤーで思い出深いのがクラシックの”**剣の舞**”だ。テンポが良い繰り返しのフレーズだった。それから映画音楽のEP（**狼の挽歌、男と女、メロディ・フェア、1972年の札幌オリンピックテーマ曲の虹と雪のバラード..**）を買って聞いていた記憶がある。社宅のアパートなのでステレオセットは無かった。この時代で音楽鑑賞が趣味の家はお金持ちと決まっていた。懐かしい札幌オリンピック、女子フィギュアのジャネット・リンの大ファンでした。



おわり

6. 今月の写真は学生寮の風景(1975)

高専の学生寮の一室の風景です。1～3年は地獄の4人部屋。1部屋に16、17、18歳学生の混成だった。2段ベッドの下に先輩、上に後輩が寝る。一応、カーテンで区切ってあるが、ミシミシ音がするので気を使う。16歳で入学すると18歳の3年生はとても怖かった。先輩の按摩、ラーメン作り、買い物、お世話と働き蟻の1年生。自分の勉強？それは贅沢だ。全ての用事が済んでから自分の時間が持てる。この狭い空間に音楽コンポセットの城を築城した先輩がいた。

そして、別棟には19、20歳の人に住む異国の宿舎があり、ここに入るときはビクビクものであった。写真には万年床が写っている。干すのは年に1回ぐらい。中には5年間日に干さない猛者もいた。上に備え付けの本棚と、風呂のブリキの桶。自分用のスチール本棚があり、部屋には備え付けの大きめのロッカーがあり、四季の布団やインスタントラーメンをしまっておく。掃除、洗濯、勉強、部活、バイト、死なずに済んだ自分を褒める。たぶん要領が良い方だったのが幸いした。この5年間で、すっかり、“黒い自分”がいることに気がついた。俺はけっこう悪いヤツかも？白と黒を使い分ける、大人の術を手に入れた。



ほぼ万年床、洗濯物と膨大な専門書



この部屋は上級生用の2人部屋
4年生(19歳)以上になると入れる。こんなラーメンもあった
1-3年生は地獄の4人部屋でしごかれる。



7. 現在の音楽環境

現在はiMacのiTunesで楽曲の管理、音源、ダウンロードと、これ1台でなんとかなります。持ち運び、旅行に行く時はiPodに入れた曲を聞きます。仕事のBGMにかけるイージリスニング、ヒーリング、それに趣味で聞くジャズ、特に渋い女性ボーカルが好きです。夜はしっとりとしたジャズが大人の味が良い。図書館が近くにあるのでまとめてCDのバックアップをします。インド、トルコ音楽も好きです。例えば右のアルバムは6曲で1時間6分もある。ヒンズー語は接点が無いが、どうもインドの古い物語を歌っているようだ。1曲が16分もある物語。BGMとして聞いている。



インド音楽。何やら物語を延々と歌う

8.今月のF

今月も7/10に行ったASEAN研究会からです。一人10分程度でプレゼンしてお茶のみながらツッコミを入れて楽しく70分ほど過ごします。Fはノリノリで三溪園の結婚式を発表しました。楽しそうです。自作自演の余興ビデオも入れて今日は主役と。一瞬、若い頃のメンターも写っていました。どことなくオードリー・ヘップバーンに似ている。手前の女の子が井口さんで同じく、昨年、籍を入れて6月に軽井沢の星野リゾートで結婚式をあげた写真をみせてくれました。増田は1986年のカトリック教会での結婚式を上映しました。大和と上州の両家の農産物の鶴と亀のアイデアは良いですね。



手前井口女史、権谷様、北野様、F



三溪園にて芝ガーデンで洋装に着替えて披露宴

9.最近読んだ本

有益で面白く、こんな本があるのか？と驚いた。

定年バカ (SB新書) 新書 - 2017/11/7 勢古 浩爾 (著)

【発売即6刷、5万部突破のベストセラー】それでも、焦ってはいけない！
定年後こそ青春というバカ、生きがい追求バカ、健康バカ、
資産運用に走るバカ——でも、ちょっと自分にも当てはまる……。



増田感想：

定年後の長い時間を「何かをしなければ」と考えがちな真面目な日本人が多い。私も焦った一人。悪い見本の大人(実父と義理父)2人を間近にみたので、考えちゃった。書店に行くと大橋巨泉みたいなとんがった人の体験談を売っている。この本は、そんな本を引用しながら、「馬鹿言っちゃいけないよ、人それぞれ、好きにするよ。」と開き直った本です。私的にはニーチェの「永遠回帰、昔から同じことの繰り返し、人生に意味はない」が人生論の出発点なので共感して勇気もらった。メンターのように日常を自然の恵みと古典文学を相棒として愉しむ。そんな庶民でいいです。我家は農地が無いので、新林公園の里山管理がその代わりです。